

校長のつぶやき II

校長室便り 最終号 (第62号)

令和3年3月29日 山内

○離任式 ー天我が材を生ずる必ず用ありー

「天我が材を生ずる必ず用あり」唐代の詩人・李白の言葉であります。私はこの言葉を昨年度卒業した先輩たちにも贈りました。材とは体や才能の意味だそうです。天は自分という人間をこの世に生んだ。天が生んだ自分には必ず用、すなわち役割、使命があるという意味です。役に立たない人間はいないし、必ずや使命を帯びているのです。私達一人一人に必ず天が託した役割があるのだと思います。社会的に成功を収めて、福祉に寄与する役割の人もいます。ノーベル賞を取って人類に大きな貢献をする人もいます。スポーツ選手として大成して人々に夢を与える役割の人もいます。しかし、このような大きな使命でなくとも良いと思います。自分がどんな些細なことでも良いから、人間としての役割や貢献を担っていればよいのです。

大切なのは、天から与えられた役割や使命を自覚できるようになることだと思います。皆さんも「これが、私の使命だったのだ」「私の役割はこれだったのか」と自覚できる時が必ず来るはずですよ。そうすれば、大きな原動力になるはずですよ。仕事の上でも人間関係でも、勉強でも大きな困難にぶつかってもそれを乗り越えられるはずですよ。

では、天から与えられた、自分の役割や使命を自覚できるようになるにはどうしたらよいか。それは、今置かれた立場で全力を出し切る。与えられた仕事に全力で取り組む。将来のことや過去の失敗のことはさておき、全てを全うすることに尽きると思います。勉強、研究、仕事、恋愛、家事などすべてにあてはまります。今の状況を全力で生きることが大切だと思います。このような日々の努力積み重ねが未来への道を開いていくのだと思います。今のこの時を悔いなく生きることの積み重ねが、天から与えられた自分の使命に気付くこととなります。すぐ近い将来「これが私の使命だ」自覚できる人もいるかもしれませんが。もう少し時間がかかる人もいるかもしれません。「天 我が材を生ずる 必ず用あり」天が皆さんに与えた使命とは何かを求めるように生き、その使命を全うするような生き方を送ってほしいと願っています。

4月からは校長を離れ、県総務部私学・公益法人課というところで働くことになりました。公立学校ではなく、私立の幼稚園・小中高・特別支援学校のお世話をしなければなりません。高校生に公立も私立もなく、みな同じ宮城の子供たちです。9年ぶりの県庁勤務で戸惑いもありますが、最善を尽くしたいと思います。このつぶやきは二年間で通算118号となりました。そろそろお別れの時がきました。体育館でも言いましたが、皆さんの校長だったことを誇りに思います。いつの日かまた元気にお目にかかりましょう。私はいつでも岩高を応援しています。これで校長のつぶやきはお終いです。

○転出される先生方

事務室長 大場利明 先生 (ご定年 玉造荘 業務課長へ)

主幹教諭 佐々木恵 先生 (古川黎明高校へ)

教諭 吉田茂久 先生 (佐沼高校へ)

教諭 関和佳子 先生 (仙台西高校へ 教頭に昇任)

養護教諭 石橋二美 先生 (角田支援学校へ)

主事 佐藤有樹 先生 (古川黎明高校へ)